２０２４年１１月３日聖霊降臨後第２４主日説教

申命記 6 章 1-9 節
ヘブライ人への手紙 7 章 22-28 節
マルコによる福音書 12 章 28-34 節

先週は、バザーお疲れさまでした。今年も楽しいバザーとなりました。わたしたちに与えられた東京聖三一教会を通して、わたしたちのみならずバザーに訪れてくださった方々一人ひとりに、主なる神様の恵みが、豊かに注がれていることを改めて感じました。

本日は、福音書を中心に学んでいきたいと思います。本日の福音書は、『聖書』の小見出しに「最も重要な掟」とありますが、この表現には二つの意味があります。律法の中で最も重要な掟という文字通りの意味と、イエス様の教えの中で最も重要な掟という意味の二つです。ただし、イエス様の教えの中でという意味では、それはこれですというような形で表現されていません。論争物語を通して、間接的に、また逆転的に表現されています。

本日の福音書のお話の流れを確認しますと、舞台はエルサレムです。直前では、ファリサイ派やヘロデ派の人々が、「皇帝への税金」について、イエス様に意地悪い質問をしていました。次に、サドカイ派の人々が、「復活について」について、同じように意地悪い質問をしていました。ファリサイ派も、ヘロデ派も、サドカイ派も、歴史的位置づけとしては当時の宗教的・社会的に有力・指導的な集団です。物語世界の中の役割では、イエス様に敵対する集団です。律法学者もそこに含まれます。

本日のお話は、それら二つのお話のあと、「**彼らの議論を聞いていた律法学者の一人が進み出、イエスが立派にお答えになったのを見て、尋ねた**」（マルコ 12:28）と、敵対者に属する登場人物（律法学者）が登場し、イエス様に質問するという形の三つ目のとして始まります。また敵対者との論争か、初めて読む人にとっては、そのように予期させるお話の始まり方です。

一人の律法学者の質問は、「**あらゆる戒めのうちで、どれが第一でしょうか**」（マルコ 12：28）というものでした。イエス様は、「**第一の戒めは、これである。『聞け、イスラエルよ。私たちの神である主は、唯一の主である。心を尽くし、魂を尽くし、思いを尽くし、力を尽くして、あなたの神である主を愛しなさい。』第二の戒めはこれである。『隣人を自分のように愛しなさい。』この二つにまさる戒めはほかにない。**」（マルコ 12：29-31）と答えます。その答えを要約して言えば、第一に「神を愛すること」、第二に「隣人を愛すること」です。第一は、本日の旧約日課にあります。第二は、レビ記１９章１８節です。これらは奥義のような特殊な教えではありません。律法学者が聞くまでもな

いような、ユダヤ教徒ならば誰でも知っているような基本の教えです。ここではイエス様の方が、少し意地悪です。

質問したのは律法の専門家ですから、当然知ってますと怒ると予想されます。あるいは１０月１４日に学びました、１０章２０節の金持ちの男のように「**先生、そういうことはみな、少年の頃から守ってきました**」と答えることも予想されます。しかし、質問した律法学者は、そのような予想を裏切り、「**『神は唯一である。ほかに神はない』と言われたのは、本当です。そして、『心を尽くし、知恵を尽くし、力を尽くして神を愛し、また隣人を自分のように愛する』ということは、どんな焼き尽くすいけにえや供え物よりも優れています**」（マルコ 10：32-33）と語り、イエス様の意見に賛同したのでした。賛同というより、実は、賛同以上の答えをしたのでした。

それでは、イエス様の答えと、その律法学者の語ったことと、何が違うのでしょうか。イエス様は、第一に「神を愛すること」、第二に「隣人を愛すること」と、順番を付けて答えました。しかし、律法学者は、『「神を愛すること」と「隣人を愛すること」』とそれら二つを、一つのものとして答えたのです。そこに違いがあったのです。すると、イエス様は、「**イエスは律法学者が適切な答えをしたのを見て、『あなたは、神の国から遠くない』と言われた**」のでした。つまり、律法学者の答えは、イエス様の考えにふさわしい答えだったのです。神の国はまだ到来していませんから、「**あなたは、神の国から遠くない**」は、彼を非常に高く評価している言葉です。イエス様の従ってきた弟子たちではなく、敵対者に属していた律法学者の一人がイエス様の教えに同意して、イエス様の最も大切な掟・教えを示す。マルコという物語は、このような仕組みで、に、読者に強く印象付ける形で、それを示しているのです。

それではなぜ、直接的に大切な教えとはこれです、このようにしなさいと（山上の説教のように）教える物語を描かないのか、それはこの最も大切な掟・教えが理論ではなく、イエス様のご生涯から、それぞれが学ぶ必要があるからです。言い換えればマルコという物語全体から、物語られた様々なお話に触れた一人ひとりが何かを学び、具体的に実行していくものであるからです。ただし、愛という言葉は、平和と同じく、それを実行する時、悲しい出来事を引き起こしてしまうこともあります。そのような人間中心のものではない、イエス様の示す愛を具体化するために、イエス様のご生涯から学ぶことが大切なのです。

主なる神様を愛することと隣人を愛すること、それは一つである。それをどう具体化するか、それがキリスト者個人にとっても、教会にとっても最も大切な課題です。世界にまことの平和が満ちるまで続く課題です。その課題達成のための歩みを、これからも続けたいと思います。